

令和六年度助けあい物語賞 社協会長賞

「私や私たちがした親切」

取手小学校四年 佐々木 莉杏

私が二年生の時、お母さんと散歩の帰り道に白杖を使っている目の不自由な人が居ました。その人は、道がわからなくなってしまう困っていました。それを見たお母さんが私に「大丈夫ですか。と聞いてみたら」と言われたので、私は少し恥ずかしかつたけど勇気を出して声をかけにいきました。そして肩を貸してお家まで道案内をしました。その人は、すごく喜んでくれて私もとてもうれしくなりました。

この出来事をきっかけに私はこれからの生活で家族や友達、学校の先生などが困っているときに誰よりも早く助けに行けるような心優しい人になりたいと思いました。誰かに言われて行動するのではなく、自分から行動したいです。親切にした自分も親切にしてもらった人も、みんなが優しい気持ちになることが分かりました。

親切にする「こともされる」ことも、恥ずかしがらずに当たり前にできる世の中になっていったらいいなと思いました。